

優秀賞

## 私の行動は未来への第一歩

賢明学院小学校 4年 上田 珠寛

「この悲惨な状況を伝えていくのが私たちの役割なのです。」

これは、沖繩の水族館で飼育員さんが言っていた言葉だ。若くして死んでしまったイルカや海ガメの胃袋の実物を見た。胃に絡まった網やレジ袋がパンパンに消化できずに残っていた。海が大好きな私の家族はほとんど毎年、沖繩に旅行する。シュノーケルをするとすき通った海の中に色とりどりの魚がのびのびと泳いでいる。水の中では音が聞こえなくなつて、まるで浦島太郎のりゅうぐう城にいるような気持ちになる。この海のどこかにイルカや海ガメ、クジラやジンベイザメが住んでいると思うと、大声でさげばたいぐらいワクワクする。結局、旅行するだけの私には美しい海のほんの一部分しか見えていなかったのだ。それを思うと、今まで楽しく旅行するだけだった自分はずかしくなつた。その死んでしまったイルカは大きくなつて子どもができて家族がふえたり、どんどんと命が繋がつていたはずだったのに私達人間のせいで命のチェーンがぎれてしまったのだ。私は初めて今までの行動をふり返つてみた。海にゴミが落ちていても、自分のゴミではないと思つて知らないふりをしてしまつていた。テレビで環境汚染の特集をしていても、興味をもたずになんの行動も起こしたことはなかった。しかし、実際に動物たちが死んでいつている姿を見て、私たち小学生でも現実を知ることが大切で、一人一人が行動を起こすことが重要なのだと分かつた。今ある豊かな自然は昔の人達から守られてきたもので、私達はその譲り受けた自然を守つて未来の子ども達につないでいかなければいけない。

いつか飼育員さんが笑顔で「みなさんのおかげで魚達が幸せに、元気にくらせるようになりました。」と未来の子ども達に伝えることができるように「知ること、意識すること、行動すること」を目標に今日から実行していきたい。